愛知県被災者支援センターニュース 第91号 平成30年 1月24日発行

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階
TEL ：052-954-6722
FAX ：052-954-6993
開館：月～金 10～17時

タイトル「犬」

塩田理々香さん（15歳）

＜表紙に掲載する私の１点、１枚を募集しています＞

あおぞらの表紙にあなたの作成した作品を掲載してみませんか？興味が湧いたらご連絡ください。

①作品のタイトル ②説明（30字程度）③掲載するお名前 ④年齢 ⑤連絡先（氏名・メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたはFAX、郵送にてお送りください。

＜編集委員募集のお知らせ＞

月に一度発行している「あおぞら」は、愛知県被災者支援センターのスタッフとボランティアの方がたで協力をして発行しています。あなたも編集委員になってみませんか？

＜発送作業のボランティア募集＞

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

2月25日便の予定			お問合せ・お申込み
封入作業	2月23日（金）	午後	愛知県被災者支援センター
発送作業	2月26日（月）	午前	TEL：052-954-6722 （渡邊）

※定期便は月１回お送りしますが、別途必要な情報については、臨時便として郵送させていただきます。

子育て体験記①

不登校を経験して

不登校。増加しているとニュースでは聞いていましたが、まさか自分の子が経験するとは思いませんでした。

9月の始業式の日、「学校に行きたくない」と言い出し、翌日は頑張って行きましたが、それ以降登校しなくなりました。しばらくの間、私たち親、先生、スクールカウンセラーで原因を探りましたが、決定的な理由はわからないままでした。放課後登校や別室への登校など頑張りましたが、周りの子と同じように学校に行けない自分を責めて苦しそうでした。家から出る時、人を見るたびに怯えて隠れようとする姿を見て、このままではダメだ、安心できる場所で安心して付き合える人の中で過ごすことが必要だと感じました。

9月末頃、スクールカウンセラーから「フレンドリーナウ（子ども適応相談センター)」を紹介してもらいました。不登校の小中学生が通える施設で、名古屋市内に3ヵ所あり、それぞれ規模も雰囲気も異なります。親子で3ヵ所を見学してみて、本人が通えると言ったところに申し込みました。通いやすさだけでなく、人数や雰囲気

＜プレイルーム（子どもの相談のへや）＞

＜なごやフレンドリーナウ（浄心）＞

など、本人の希望を聞きながら選べたのはとてもありがたかったです。

見学して驚いたのは、通っている子どもの数が想像以上に多かったことです。特に中学生の不登校が多いそうで、その人数は年々増えているそうです。見学してすぐに申し込みましたが、その頃は希望者が多いこともあり、審査などに時間がかかり、実際に通い始めたのは11月からでした。はじめは本人のペースに合わせて、滞在時間は自由ですが、我が子の場合は居心地がよかったようで、早い段階で朝から帰りの会までいるようになりました。遠足などのイベントを通して友達もでき、今も楽しく通っています。また、フレンドリーナウに行くと学校の出席日数にカウントされます。それも子どもたちにとって、頑張って通うきっかけになっています。

私も同じ立場のお母さん方とつながることができ、悩みを話したり、情報交換したりして、お互いに心の支えになっています。民間のフリースクールの親の会にも参加し、子どものサポートや関わり方を専門家の先生から学んでいます。不登校に関す

子育て体験記②

るネットの情報、書籍、集まりは探せばたくさんありますが、それぞれが全く違う方向のことを言っていて、はじめは混乱しました。不登校のパターンは人によって違いますし、それまでの生き方や性格によってカウンセラーや施設との相性も変わります。他の人が「いいよ」と言っていても、自分たちにも合うとは限りません。可能な限り面談や見学をして、しっくりくるところを見つけることが大事だと感じました。何が我が子に合っているのかを見極めるには、親だけでは視野が狭くなると思います。やはり、信頼できる専門家や同じ立場の人とのつながりが重要で、私もかなり助けられました。

私は子どもが不登校になった直後は、「周りの皆と同じように学校に通える」ことをゴールにしていました。その頃は親子共々とても苦しかったです。皆と同じことができないことへの不安でいっぱいでした。数ヶ月経ち、子どもは学校に行きたくない理由を少しずつ話すようになりました。また、私もいろいろな話を聞くことで視野が広がり、新しい「学校」の形を知り、「学校」を選択することの大事さに気づきました。「学

＜鶴舞サテライトの外観＞

＜ラポールホール（みんなで過ごすへや）＞

校」の中でも、小学校は特に選択の自由が少ない。我が子が不登校になって初めて、その現実に気づきました。それまでは何の問題も感じていませんでした。

決められた中で学ぶことが合う子もいれば、自由なシステムの中で過ごす方が合う子もいます。我が子は学区の学校には通っていませんが、フレンドリーナウには定期的に通っています。「学校に行けなくなった」のではなく、「自分に合う学校を選択している」。学校を自分で選択し、自分で人生を切り開こうとしているんだと考えるようになりました。その選択はすごい勇気なんだと、今では理解できます。

でも、そう思える日本人はどれくらいいるのでしょうか。さまざまなプレッシャーに苦しんでいる親子はまだまだ多いと思います。広い視野で見ることの大切さを、私も微力ながら伝えていきたいと思っています。不登校について考えている方がいるようでしたら、交流会などで話せたらと思っています。一緒に心の整理をしながら、子どもたちのサポートができたらうれしいです。

（ペンネーム　ちゃこ）

支援制度紹介（名古屋市内の不登校の相談機関）

子ども適応相談センター（なごやフレンドリーナウ）とは？

登校できない児童・生徒を支援することを目的とし、名古屋市内３か所（浄心・笠寺・鶴舞）で、通所による教育相談や適応相談を行っている施設

・教育相談部　原則として週１回もしくは隔週１回、本人・保護者それぞれ面接による相談
電話相談は行っていない

・適応指導部　≪体験部≫通所開始からしばらくは体験部での活動、創作活動、ゲーム、読書、スポーツなど日常の様々な活動を通して、集団の中での生活に慣れることから始める　週 1～3 日の通所

≪小学部・中学部≫通所に慣れてきたら、週 4～5 日の小学部・中学部での活動へ
自習の時間も取り入れている

≪体験活動≫活動内容は年度により異なるが、菓子作り、公園散策、いちご狩り、金華山登山、所内宿泊、所外宿泊（海水浴、雪遊び）など時季に応じて様々な体験活動も行っている

対象：心理的な理由によって登校できない名古屋市在住の小中学生とその保護者

申込方法：通所前に施設見学が必要のため、本人と保護者で３か所から希望する施設の予約見学を行うこと　**浄心・笠寺の予約は 052-521-9640　鶴舞の予約は 052-262-2320**
見学後、学校から申込書を受け取り、記入し学校に提出

施設案内

なごやフレンドリーナウ（浄心）の案内

〒451-0031
名古屋市西区城西 3－20-30
Tel：052-521-9640
月～金（祝日・年末年始を除く）
8：45～17：30

鶴舞サテライトの案内

〒460-0012
名古屋市中区千代田 5-18-24
TEL：052-262-2320
月～金（祝日・年末年始を除く）
8：45～17：30

笠寺サテライトの案内

問い合わせ・見学申込等は、なごやフレンドリーナウ（浄心）TEL：052-521-9640 へ

≪教育相談部≫
〒457-0833
名古屋市南区東又兵ヱ町 5-1-16（スポーツ復興会館 5 階）

≪適応指導部≫
〒457-0833
名古屋市南区東又兵ヱ町 5-1-10（南生涯学習センター1 階）

出典：名古屋市 HP　なごやフレンドリーナウ（不登校の相談機関）
http://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000050017.html

リレートーク

ふるさとの様子を見てきた人の話を聞きたいという声に応えて、今回は釜石へ行ってきた鈴木さんの感想を紹介します。

震災から６年目の釜石

千年に１度の確率の不幸な体験から激動の日々が過ぎ、やっと帰ってみようかと思えるようになったのは、３年目の10月でした。疲弊した心と身体を慰められる場所を釜石祭りに求めながら、泣き言をいう間もなく別れてしまった家族、友人、親戚などとの再会を楽しみに……。津波で破壊された魚市場は閉ざされ、狭い奥まった岸壁での曳舟祭りでしたが、たくさんの懐かしい人たちと会うことができ、久々の尾崎神社の神輿に手を合わせ地元の居心地の良さに癒されました。２回目は神輿、神楽、虎舞などの郷土芸能の渡御行列があり、震災前ほどではないものの、楽しみにしている人々でにぎわいを見せていました。しかし、知り合いの仮設住宅に出向いて愕然としました。楽しい祭りとは裏腹に、灰色の空間で埋め尽くされているように感じられました。住んでいる被災者の疲れ切っている様子が痛々しく、浮かれている自分たちが恥ずかしくまた申し訳なく、正直、来なければよかった……と思いました。祭りを楽しむ余裕などまだなかったのでした。と同時に行政より手厚い支援を受けて生活ができていること、都会ならではの施設がたくさんあり、楽しむことが容易にできる環境がどれだけ救いになっているのかを痛感しました。一口に被災者とは言えないそれぞれが背負っている苦しみを意識しなくてはならない難しさを感じました。

復興という名のもと、いかにも街並みの変化で進んでいるかのように見えます。その反面、被災者個人の生活水準や環境が整

う本当の意味での安心の復興はというと、高齢による健康面での不安や思うように進まないかさ上げ工事、政治への不信感から家の再建を希望していた方たちのやる気を失わせていました。

６年目を迎え、復興住宅が立ち並び、被災者からの解放とまではいかないまでも、落ち着ける住まいでの生活が前向きな生きる力となっています。戸建住宅のためのかさ上げ工事もだいぶ進み、「来年には、新築一戸建てが見せられるかも」と友人が目を細めて話してくれたのが印象的でした。「来年の祭りも帰るぞ」と思いながら、名古屋駅に着いてやれやれとほっとした自分がいました。

（名古屋市緑区在住　鈴木真砂子）

交流会①（RSY ふるさと福島体感ツアー）

ふるさと福島体感ツアーに同行して

11 月 25 日～26 日に開催された「第 2 回ふるさと福島体感ツアー」に、昨年に引き続き参加しました。このツアーは、福島県から避難され、愛知県、岐阜県、三重県にお住いの方々を対象に、「福島の今」を体感していただくもので、「認定 NPO 法人レスキューストックヤード　ふくしま支援室」が企画しました。

このツアーは、福島市・杉妻会館での帰還者交流会への参加が必須になっていますが、それ以外の旅程は融通がきくツアーです。私は 25 日昼に、いわき市に入り、そこからバスで 6 号線を北上し強制避難指示区域を見ながら、避難解除の道の駅、つい最近解除された浪江町の「十日市祭り」会場に立ち寄り、宿泊地の福島市に行きました。いわき市で子育てを応援している「ウェンディ」の副代表のガイドで居住制限が解除された市町村を通過しましたが、帰還率が平均 15%前後の地域は、限界集落のようで活気をみうけられませんでした。沿道には除染に使ったフレコンバッグが山積みにして置かれていました。休憩で立ち寄った道の駅には、帰還した人が差し入れを持って会い来てくれたり、故郷にいる親族が会いに来たりして、和やかな雰囲気でした。

翌日は福島市内の杉妻会館で、帰還者との交流会に参加しました。住宅費補助の打ち切りなどの理由で帰還し、今は福島市近郊にお住いの 4 世帯の方々にお願いし、ご参加いただきました。また、支援者として「子育て支

援センターみんなの家@ふくしま」を運営している「ビーンズふくしま」の富田さんと、いわき市で「チャイルドハウスふくまる」を運営している吉田さんから活動報告を受けました。東日本大震災で福島県では、津波被害、そして原発事故による放射能汚染から避難するために家族分離が余儀なくされる家庭などもあり、家族の結束力が弱くなり、そのしわ寄せが子どもたちを襲っています。このような環境の中で二つの団体は、福島の子どもたちが健やかに成長できるように支援をしています。

報告の後、支援者も加わって参加 16 世帯をいわき、相双、中通り地区と故郷別に 3 つのグループに分けて 1 時間半ほど話をしました。近況報告を交えての自己紹介、帰還者・支援団体の方からは福島県での暮らしぶりなど、子どもと一緒に帰還した人には、日常生活や学校給食などについて質疑がありました。今回の参加者で、いずれ帰りたいという人が 2 割くらいいましたが、ただ安全だ、人が住んでいるという根拠だけでは大丈夫だと納得できない人はいると思います。今回の体験ツアーに参加して、帰還の思いが遠くなった人、近くなった人、思いが固まった人など様々であったように思えました。強行スケジュールでしたが、自らの目・耳で確認したことは、なにものにも代え難いものであり、今後の暮らしの参考になると思います。

（あおぞら編集委員　柿田佳邦）

交流会②（「愛知県に避難されている方に寒中見舞いの絵手紙を送ろう！」贈呈の会）

2011 年 3 月 11 日、私たちは小学校 1・2 年生でした。地震を経験したことのなかった私たちは、揺れた瞬間、恐怖を覚えました。愛知県に住む私たちの心が傷ついたこの震災に、東北で被災された方々は心に穴が空くくらい傷ついたことでしょう。

今回、私たちは、東日本大震災で被災され、愛知県に避難をされている方々に、寒中見舞いの絵手紙を届ける活動に参加しました。私たちが描いたこの絵手紙で、愛知県に避難されているたくさんの方々が元気になって、少しでも不安がなくなればと考えました。そして、この寒中見舞いに、「希望はたくさんある」「私たちがいるから元気を出して」という思いを込め、また、この寒中見舞いを見てくださる方々のお顔を思い浮かべながら、心を込めて描きました。

12 月 14 日に行われた絵手紙贈呈の会の新聞記事やテレビのニュースから、私たちが描いた寒中見舞いを見て、「胸がいっぱいになった」と言ってくださったことを知り、たくさんの方々のお役に立てたことを嬉しく思っています。また来年も、より元気になってくださるような寒中見舞いをお送りしようと考えています。そして、一人でも多くの方々が笑顔になってくれるとうれしく思います。

（津島市立天王中学校　生徒会役員一同）

東日本大震災が起きてから、約 7 年が経とうとしています。時が経つにつれて、私たちは、あの震災があったことを記憶の中から少しずつ忘れてしまっているように思います。

私は、地震が起きた時、幼稚園の年長でした。小さかったので、当時のことをはっきりと覚えていませんが、この愛知県でも釣り電球が大きくゆれるほど、大きな地震だったと聞きました。愛知県でも大きくゆれたということなので、地震が起きた場所に近い東北地方では、想像がつかないほどゆれは大きく、津波は高かったことと思います。そのような地震によって大きな影響のあった場所が元の姿に少しでも近づき、以前の町よりも元気が出る町、笑顔になれる町になり、ふるさとをはなれて生活している方々が、少しでも早くふるさとにもどることができる日が来ることを願っています。

そこで、ふるさとをはなれて愛知県で生活している方々の力になりたいと思い、この絵手紙をかきました。私たちにできることは小さなことですが、心が温かくなるようなメッセージや絵を見て、少しでも元気になっていただければ、と思います。

これからだんだんと寒くなってきますが、お体に気をつけて日々の生活をお過ごしください。

（あま市立甚目寺小学校児童会長　橋本初菜）

支援センターからのお知らせ

＜2 月の交流会等イベントカレンダー＞

明けましておめでとうございます。今年も交流会などのイベントで皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。昨年に引き続き、甲状腺エコー検診＆交流相談会を行います。前回参加できなかった方はもちろん、何か心配ごとがある方は、ぜひご参加ください。

開催日	イベント名	開催地域
2 月 10 日(土)	第 65 回 囲碁クラブ交流会	東区
2 月 17 日(土)	講演会「チェルノブイリ・フクシマ　～原発事故被災者と心をつなぐ～」	瑞穂区
2 月 18 日(日)	おかざき交流相談会	岡崎市
2 月 21 日(水)	里山を歩きましょう	千種区

イベントの詳細は定期便に同封のチラシをご覧ください。チラシを無くされた方は、支援センターまでご連絡ください。皆さんのご参加をお待ちしております。

＜編集後記＞

★5～6 月に濱田農園農作業交流会でまいた大豆が、たくさん収穫できました。脱穀・選別作業を終えた大豆はころころとかわいく、手作りみそとなる時を待っています。年間を通した農の営みから、食の安全・安心を実感。春までにみそづくり交流会を企画します。乞うご期待。(K.T)

★[新]CSR 検定 2 級に合格しました。世界での CSR の流れを知ることができました。(J.I)

★この一年はチャレンジあり、変化ありの忙しい日々でした。心が折れそうな時には支えてくれる人、新たな出会いがあり「一人で生きているんじゃない」と強く感じました。新年が愛にあふれる平和な年になりますように。私も自分のできることで頑張ります。(Y.Y)

★豊田市の田舎に若い人たちが沢山移住してブームだそうな。その田舎に元教職員住宅として使用されていた戸建て（5 戸）の空き家が売りに出されている。最安物件は 34 万円 1 千円からで、田舎暮らしを希望する方は、①申し込み、②面接審査による選考により決定となる。受付期間は、平成 29 年 12 月 18 日（月）～平成 30 年 2 月 9 日（金）。問い合わせは、旭支所または小原支所まで。(H.T)

市有財産の売却先を募集します（旭支所）　市有財産の売却について（小原地区）

★あれから 7 回目の春を迎えます。3 番目の子どもが進学のため上京します。親としてできることは何だろうと自問自答する毎日ですが、今年は、これまで福島でひとりがんばってきた主人を労わりたいと思います。(E.K)

あおぞらに関する
ご意見ご感想はこちら

〒460-0001
名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1 階
愛知県被災者支援センター
ＴＥＬ：052-954-6722　ＦＡＸ：052-954-6993
Mail：aozora@aichi-shien.net